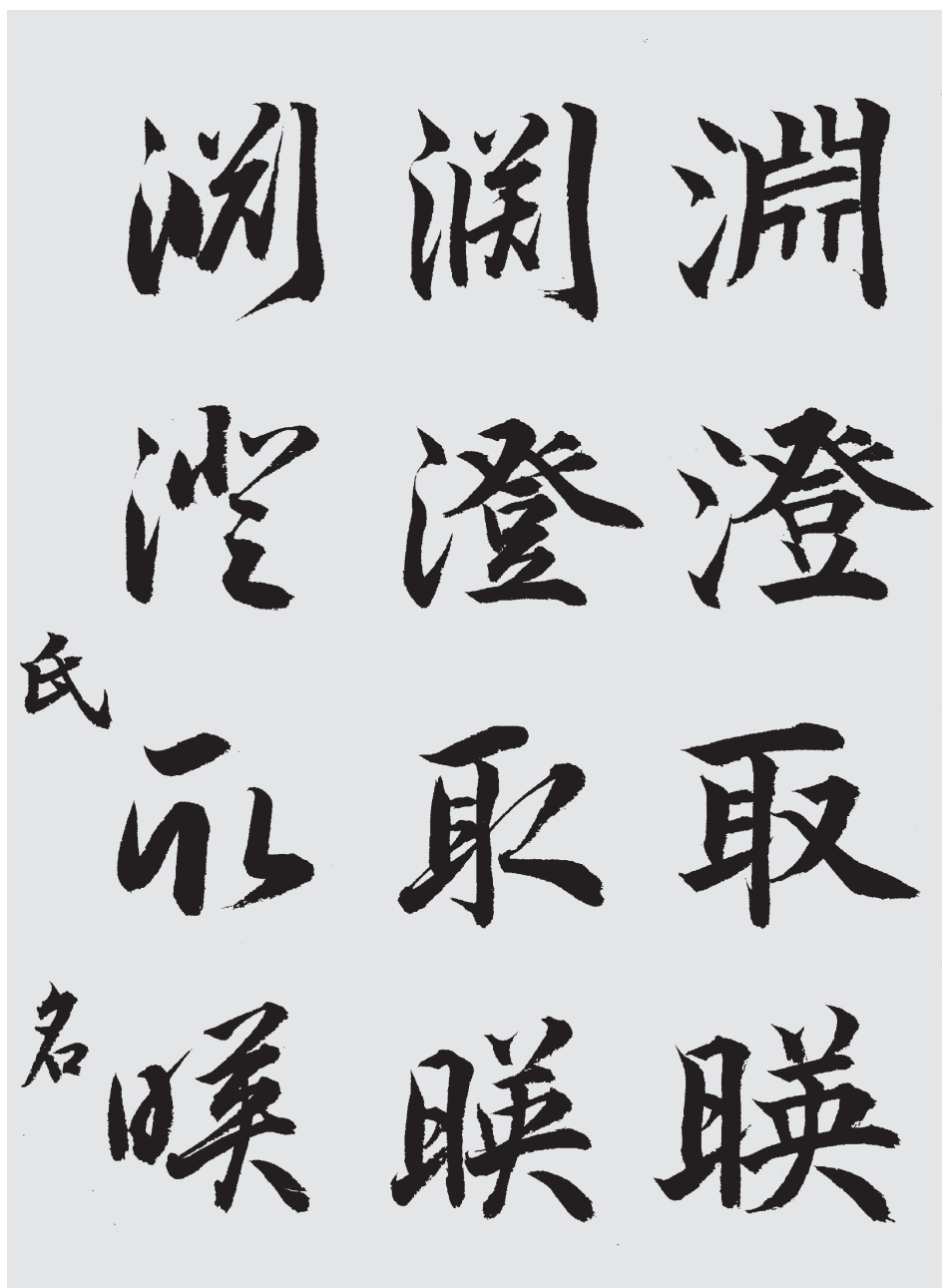


三体千字文を書く (70)

締切り 十月二十二日 (必着)



回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲照先生書

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二―五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

川流不息

淵澄取映

川は流れて、止まることなく、淵は澄んで、ものの影をつつす。

一般部規定課題

締切り 10月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕

〔読み〕仰ぎて天に愧^はず 俯^ふして人に忤^はず

仰 天 愧 俯 人 忤

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

孟子 仰ぎて天に愧^はず 俯^ふして人に忤^はず

お 尾 郷 翠 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

生	総	誇
命	て	り
で	の	の
あ	人	心
る	の	は

誇 心 総 人 生 命

ふ 古 田 瑞 苑 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆11月課題予告(行草または草書)
智は目の如し
百歩の外を見て
睫を見る能わず
▼教範・書範Ⅱ行書
▼師範Ⅱ楷書

★仰ぎて…(書体Ⅱ楷書)
孟子(前三七二、前二八九)
中国戦国時代中期の思想家
心にやましいことがなければ、仰ぎ
見ても天に対して恥じることはなく、
うつむいても人に対して恥じることが
ない。自分自身にやましいことがなく
潔白であることが大事だと言っていま
す。
孟子が君子の三つの楽しみの一つと
して述べた言葉です。
※「愧・忤」の二字の意味は恥じること。

◆11月課題予告(楷書)
自分で薪を割れ
二重に温まる
フォード

★誇りの…(書体Ⅱ行書)
矢野龍溪(一八五〇～一九三二)
明治時代の小説家・政治家
政治小説「経国美談」の作者として
有名な矢野龍溪は、一時官界や政界に
身をおいたこともあり、ジャーナリス
トとしても幅広く活躍しました。
この言葉は「不必要」からの一文で
すが、どんな人でも人間としての誇り
がその人を支えているという内容です。
龍溪の豊富な経験から得た感想である
でしょう。

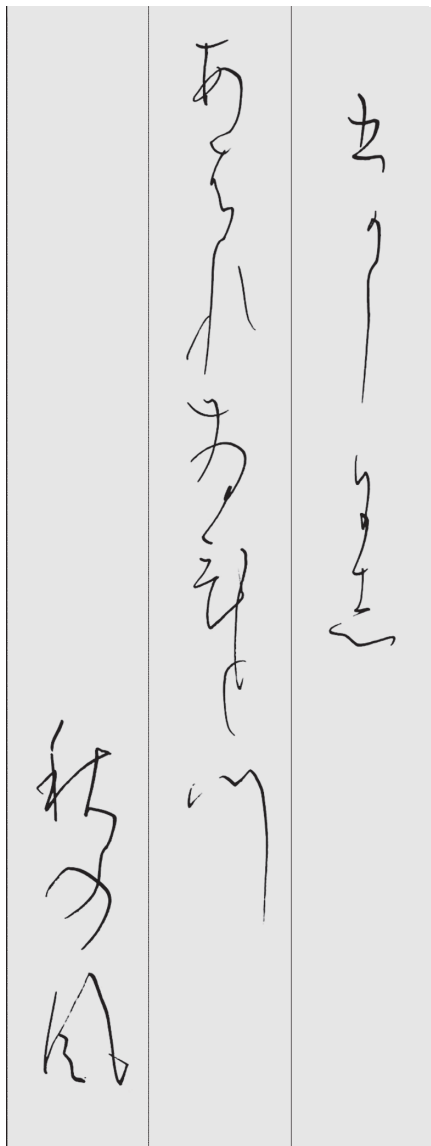
一般部かな課題

締切り 10月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

ひがしにし
あはれさひとつ
秋の風

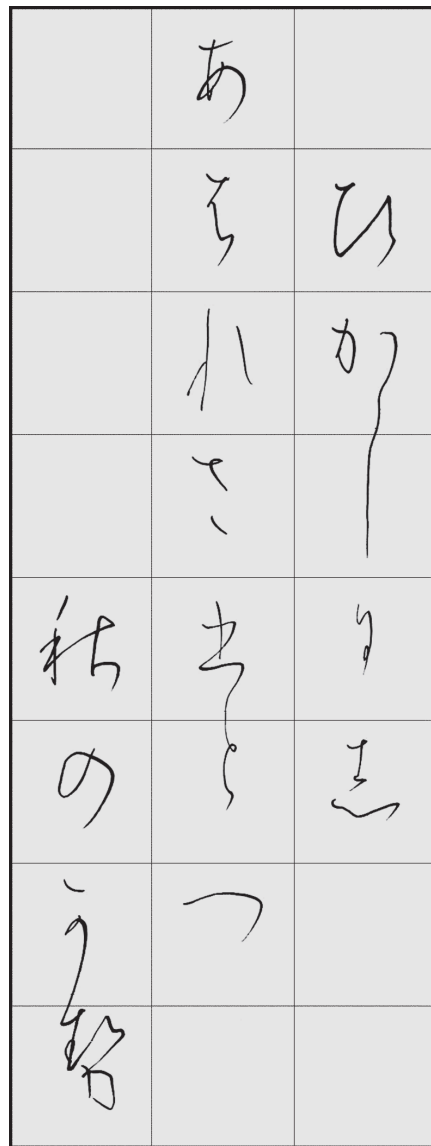


石垣秀華書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

ひがしにし
あはれさひとつ
秋の風



石垣秀華書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

◆11月課題予告

月いづこ鐘はしづみて海の底

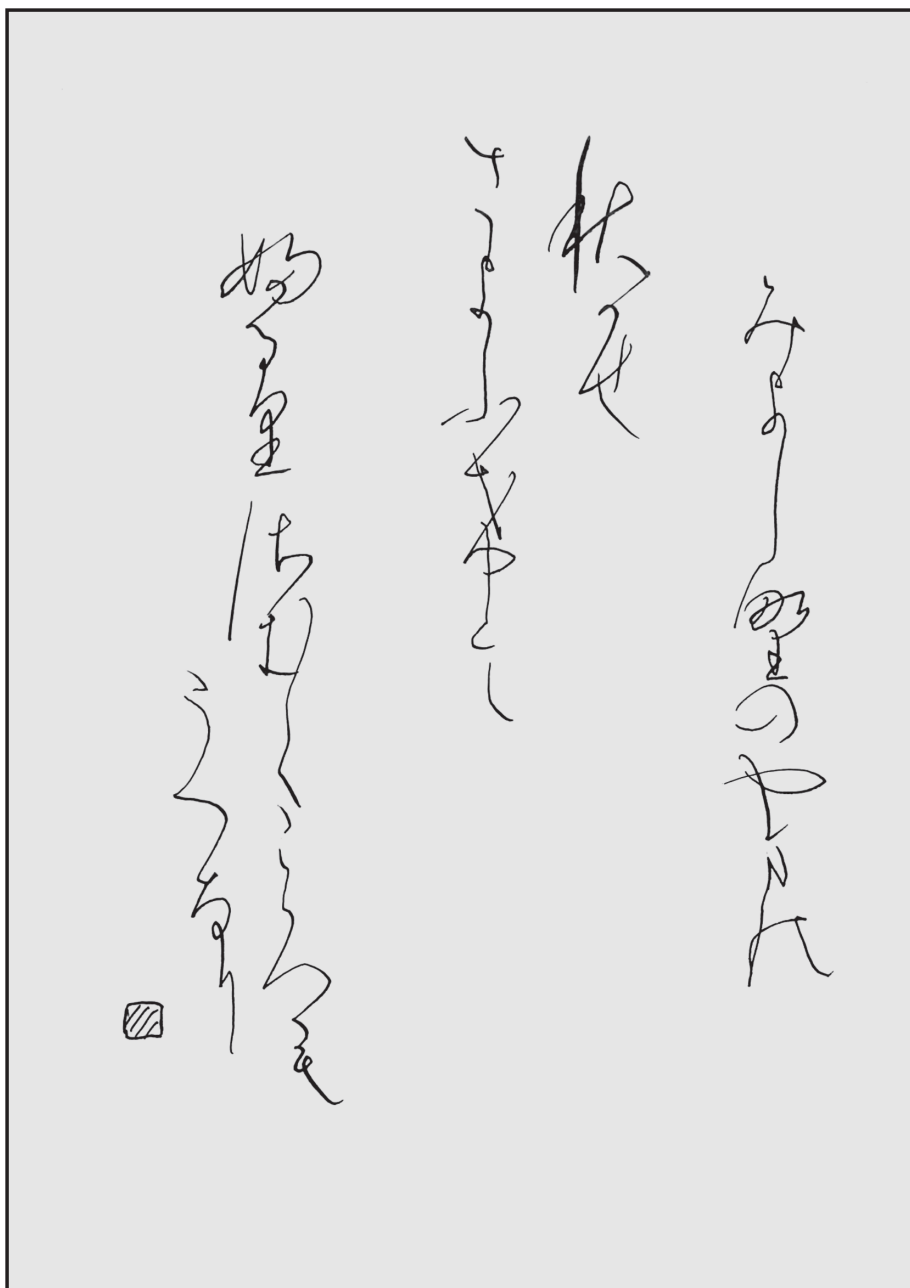
勢せ 飛ひ 散さ 者は 悲ひ
 月 鐘 海 底
 月 鐘 海 底

〔古筆参考〕

東にしあはれさひとつ秋の風
 (芭蕉句集より)
 〔出典〕貞享三年。伊勢紀行跋真蹟
 〔作者〕松尾芭蕉。正保元年(一六四四)〜元禄七年(一六九四)俳人。名は宗房、別名は桃青・風羅坊。
 〔大意〕東西に遠く隔たっている秋風は一樣にどこでも哀れに感じられる。そのように我々の風雅に志す心は同じだ、の意。
 〔解説〕一の句と三の句の始めで、筆圧を加え太くした。軽快にリズムを加味して書いてほしい。

締切り 十月二十二日（必着）

大迫秀湖書



み吉野の山の秋風さ夜ふけて
 婦里佐 ころも う 奈

〔歌意〕

吉野山に吹く秋風は夜が更けるとともに
 いよいよ寒く、離宮のあったこの里はし
 んしんと冷えて、衣を打つ訝えた音が聞
 こえてくる。

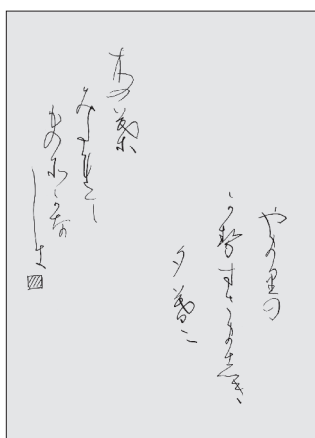
〔出典〕

新古今和歌集（新潮日本古典集成）

〔古筆参考〕

万 万 万 万 万
 能 能 能 能 能
 希 希 希 希 希
 婦 婦 婦 婦 婦
 佐 佐 佐 佐 佐
 毛 毛 毛 毛 毛

◆11月課題予告



山里の風すさまじき夕暮に
 木の葉乱れて物ぞかなしき

締切り 10月22日(必着)

今回、初めてペン字展に出品し、
展覧会場へも行ってきました。
漢字・かな・調和体など多くの
素敵な作品を目の当たりにして
感動しました。次回はもう一段、
レベルアップしたいと思います。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本はボールペン使用

今回、初めてペン字展に出品し、
展覧会場へも行ってきました。
漢字・かな・調和体など多くの
素敵な作品を目の当たりにして
感動しました。次回はもう一段、
レベルアップしたいと思います。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん 書
岡 嶋 桂 川

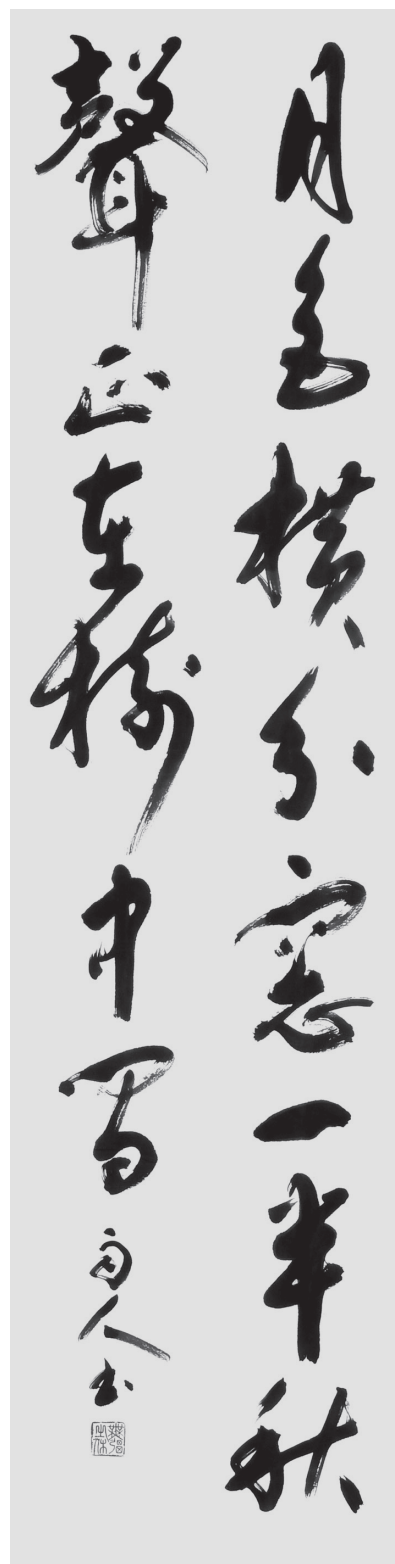
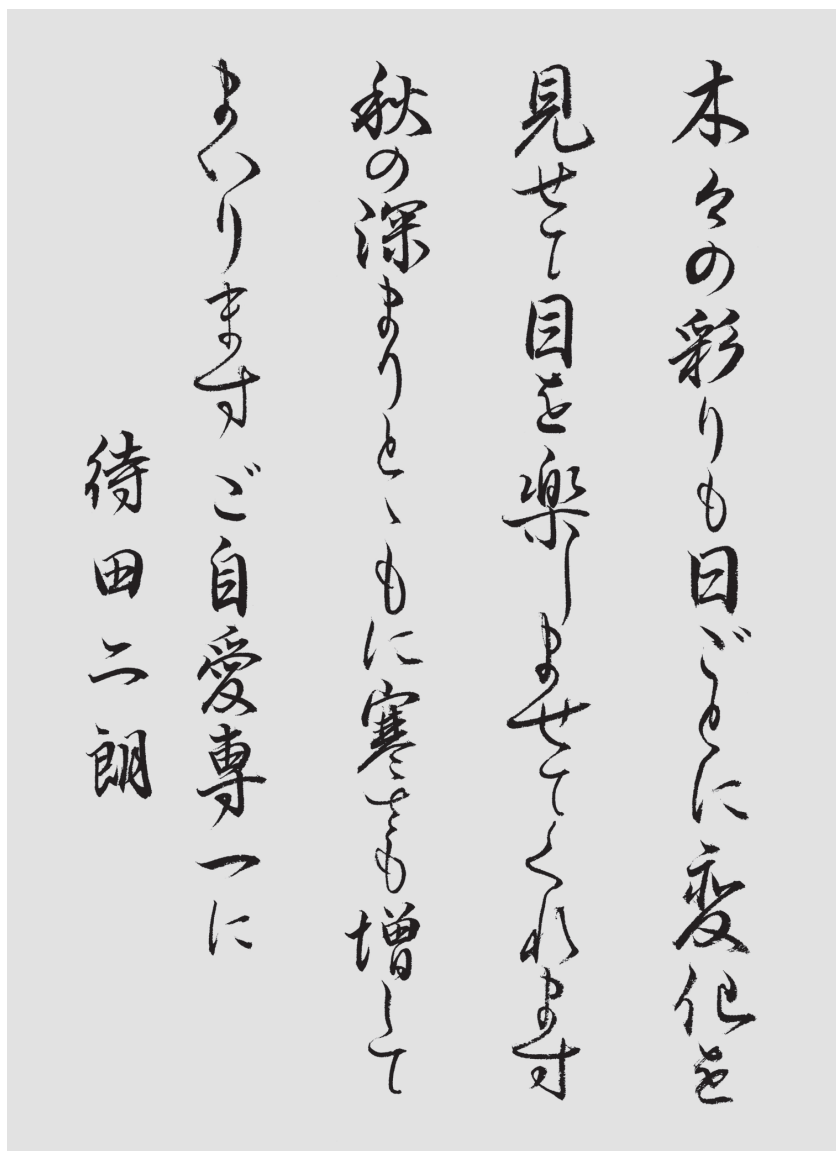
全国的な共同募金は、1947年に
始まり翌年から赤い羽根を渡した。

島根県浜田市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 十月二十二日（必着） 半切（一二六cm×三五cm）

新井龍峰書

げつしよくおうぶんすまどのいつはん
月色横分窓一半

しゅうせいまさじゆのちゆうかんになり
秋聲正在樹中間

半紙（334mm×240mm）

書 香 梅 藤 伊

〔条幅解説〕

書の腕前は急速に上達するものではありません。以前にも触れましたが、運筆する際に墨と紙と筆の調和がとれているかどうかが重要になります。特に墨と紙との相性は大切です。自身が運筆しやすい材料を選択すれば、ある程度は思うようになります。いろいろ試すことをお勧めします。

・木々の彩りも日ごとに変化を

・見せて目を楽しませてくれます

・秋の深まりとともに寒さも増して

・まいります ご自愛專一に

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕月の影は横さまに窓の半分を照らし、秋の声はまさに樹木の間に起こるのを聞いた。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

清水翠芳書

秋屋葉聲中

秋屋葉聲中
しゅうおくようせいのうち

〔大意〕秋の時候の人家は、落葉の音する処に在る。

〔解説〕

秋 屋 葉 聲 中

◆11月課題予告(楷書)

明月流
素光

準初段から師範まで

須田一葉 臨

日占星式規大

日
占
星
式
規
大

日占星式規大

〔解説〕

〔出典〕 孔子廟堂碑（六二六～六三三）

〔筆者〕 虞世南（五五八～六三八）

〔読み〕 （揆）日占星して、式って大

（壮を）規る。

日占

星式

規大

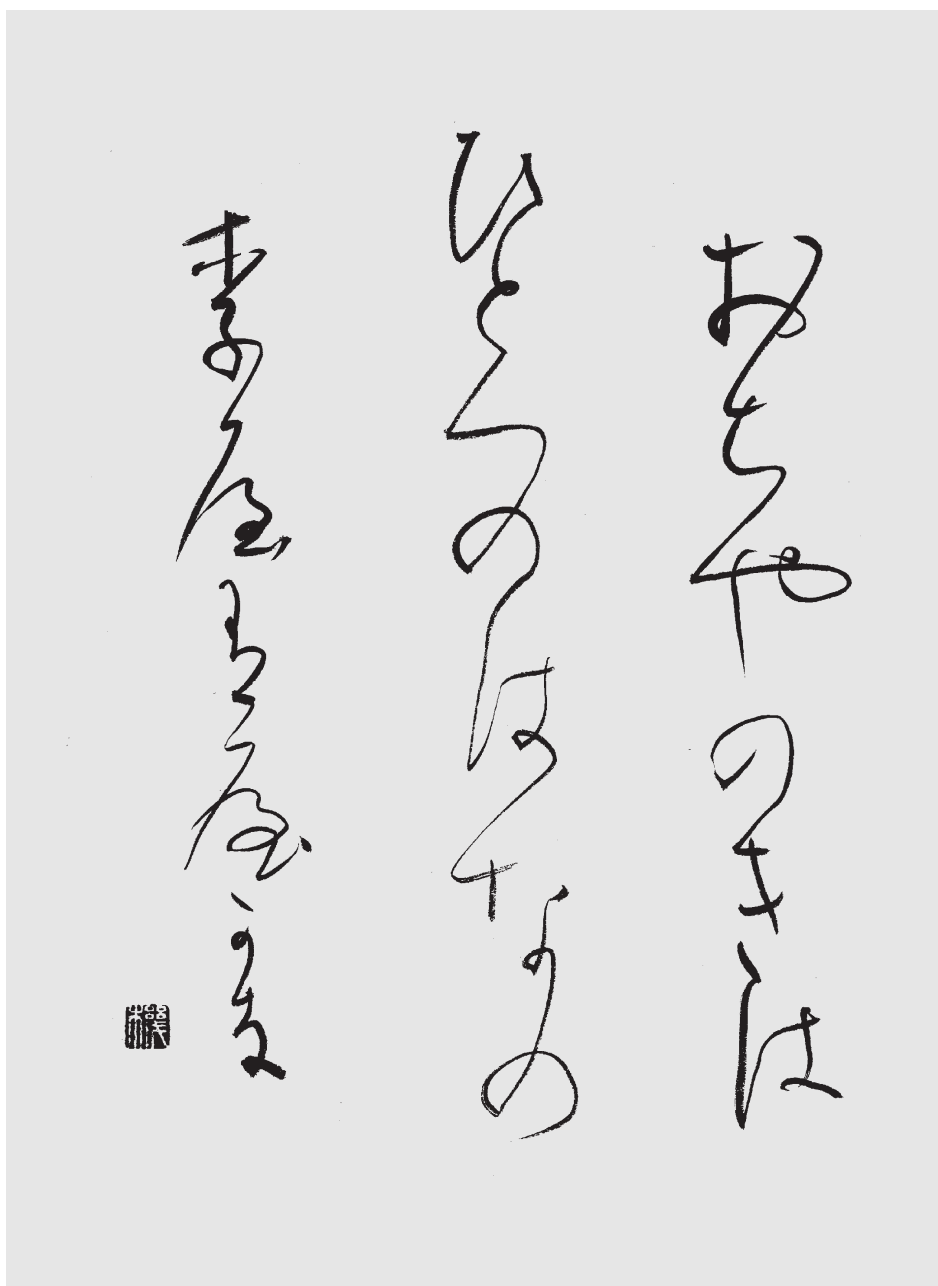
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆11月課題予告

故知聖
慈所被

新入から1級まで

浅井機山先生書



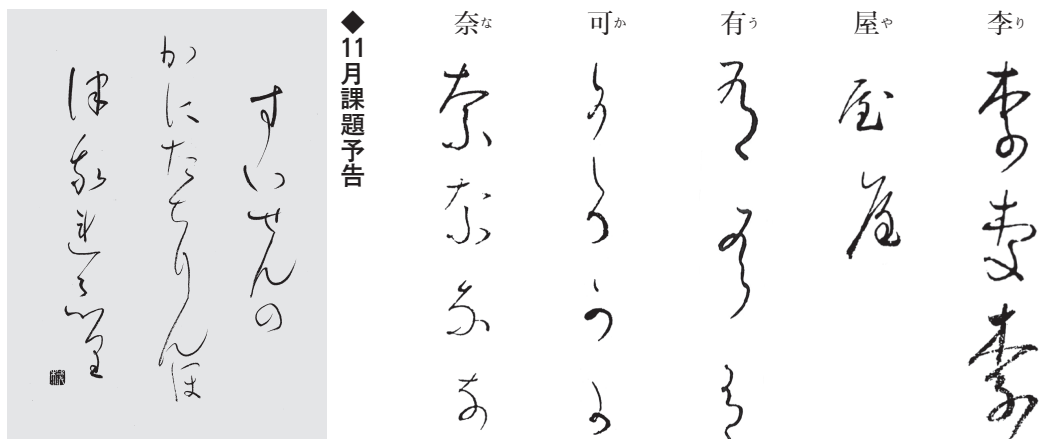
お茶ちゃの木きは一つひとの花はなの良夜李屋有屋可奈かな

渡辺水巴

〔句意〕

名月の下、庭のお茶の木に白く一輪の花が咲いている。月の光で、普段目立たなかった花までがはっきりと見い出せた、というのである。気品のある句。

〔古筆参考〕



水仙すいせんの香かにたち臨摸りんぼく疲れあり

◆11月課題予告

奈な 奈な 奈な 奈な

可か 可か 可か 可か

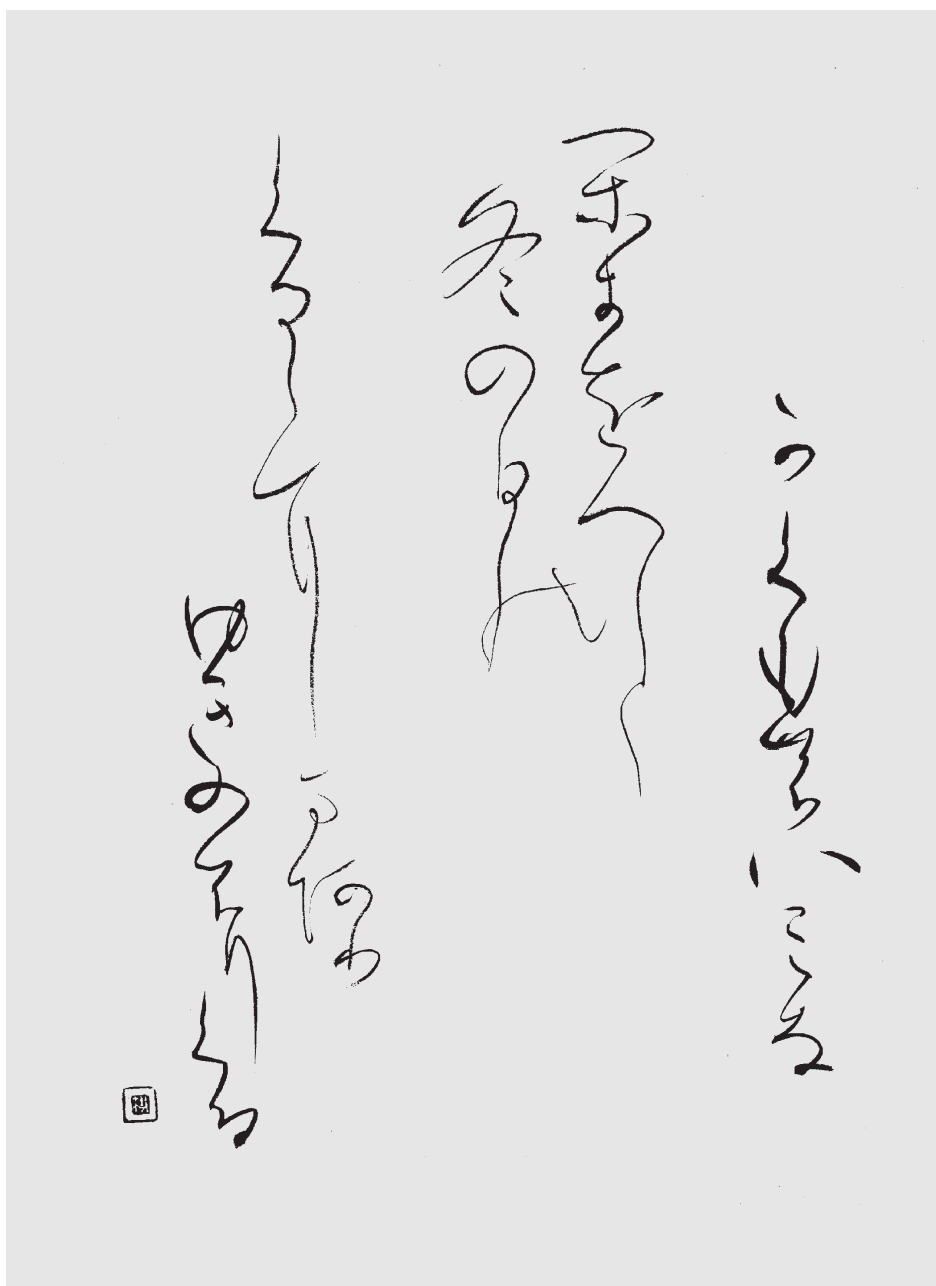
有う 有う 有う 有う

屋や 屋や 屋や 屋や

李り 李り 李り 李り

準初段から師範まで

浅井機山先生書



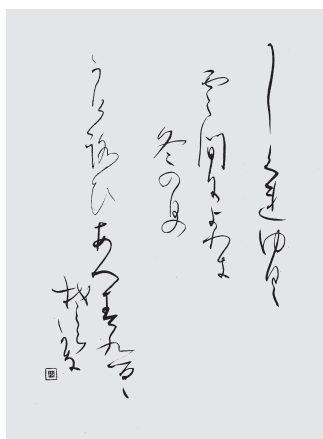
可も農ハ三奈閑支旦
書く物はみな書きをへて冬の日の
暮るるに間あり雪の降りくる

金子薫園

〔歌意〕

予定の書きものは全て終わった。暮れるに
早い冬の日も、まだ暮れるのには少し間が
ある。ホッとして窓の外を眺めていると、
ちらちらと雪が降りだした。

〔古筆参考〕

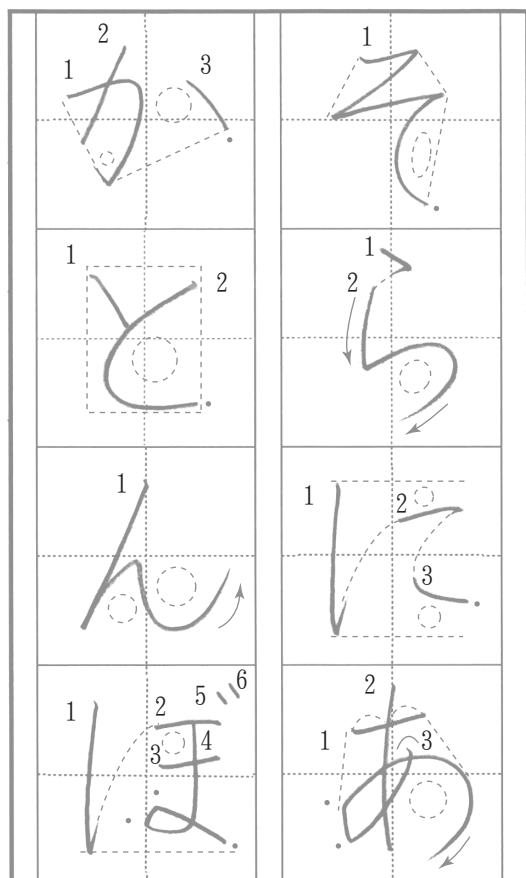


しぐれゆく雲間に弱き冬の日の
かげろひあへず暮るる空かな

◆11月課題予告

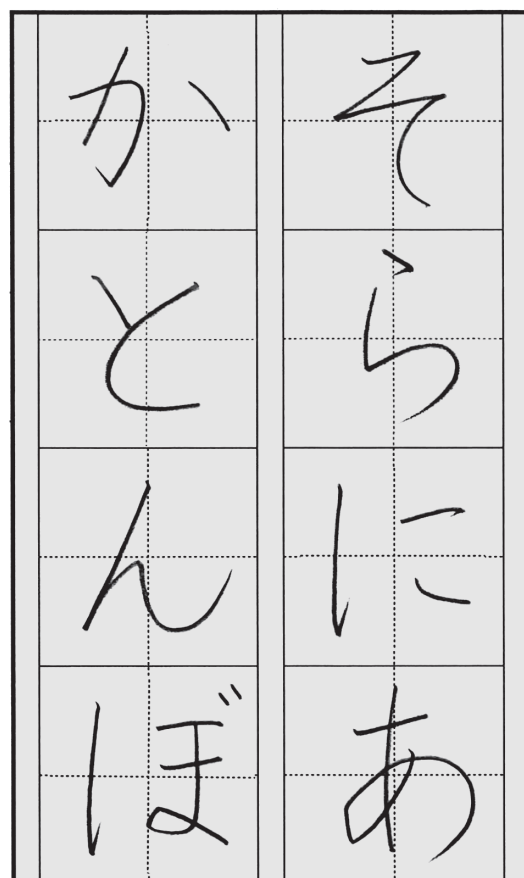
阿あ 万ま 耳に 旦て 閑か 農の
阿阿阿阿 万万万万 耳耳耳耳 旦旦旦旦 閑閑閑閑 農農農農

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



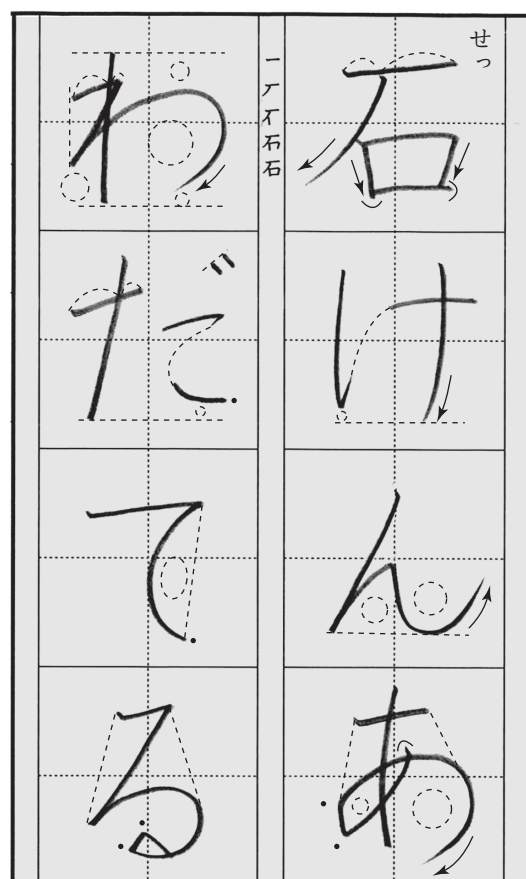
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



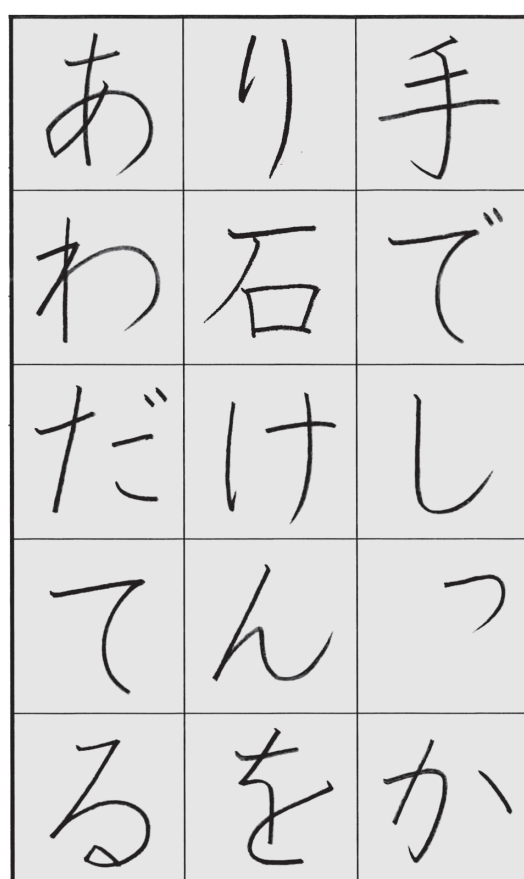
よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

一七	七 なの	一 イツ
一〇月日	日 か	週 シュウ
	あ カン	間 カン
	る	は

新入〜1級

※七日「なのか」「なぬか」の二通りの読み方があります。

七	と	数
日	一	え
あ	週	て
る	間	み
ね	は	る

小二年

準初段以上

所 ジョ	里 さと
へ	い
配 くば	も
る	近 キン

新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

近	を	畑
所	箱	の
へ	に	里
配	入	い
る	れ	も

小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

た	風 かぜ
落 お	で
ち	散 ち
葉 は	回

新入1級

い	落	風
集	ち	で
め	葉	散
ま	を	っ
す	拾	た

小四年
準初段以上

小四年以上
前 堀 玉 華 書

象 シヨウ	桜 サクラ
的 テキ	植 シヨク
通 ツウ	物 ブツ
具 カ	印 イン

解説(よく見て習いましょう)

な	物	桜
国	が	な
の	印	ど
通	象	の
貨	的	植

小五年
(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

糸納納納納綿	綿	班
ミツ	密	修
ケイ	計	学
カク	画	旅

解説(よく見て習いましょう)

計	行	班
画	の	で
立	綿	修
て	密	学
る	な	旅

小六年 (全員)

候	援	体
補	団	育
し	長	祭
ま	に	の
す	え	心

中二・三年 (行書)

溪	空	澄
谷	と	み
の	色	渡
紅	づ	る
葉	く	秋

中一年 (行書)

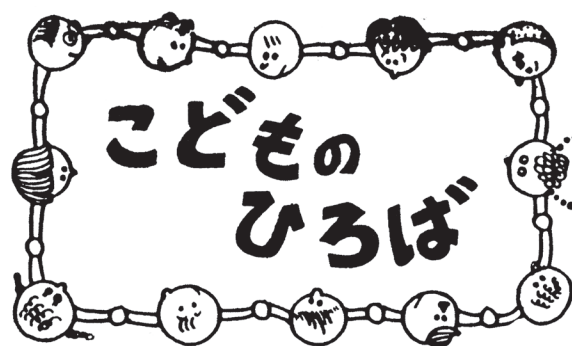
▼小三年以下の課題

い とう か せん
伊 藤 華 泉 書

え	か	カ	よ	秋
顔	け	い	ー	晴
で	っ	っ	い	れ
ゴ	こ	ぱ	ど	の
ー		い	ん	運
ル			!	動
				会



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月22日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

いな がき か しん
稲 垣 佳 心 書

笑	仮	包	オ	夕
顔	装	ま	レ	暮
が	の	れ	ン	れ
は	子	て	ジ	の
じ	供		色	
ける	達		に	
	の			

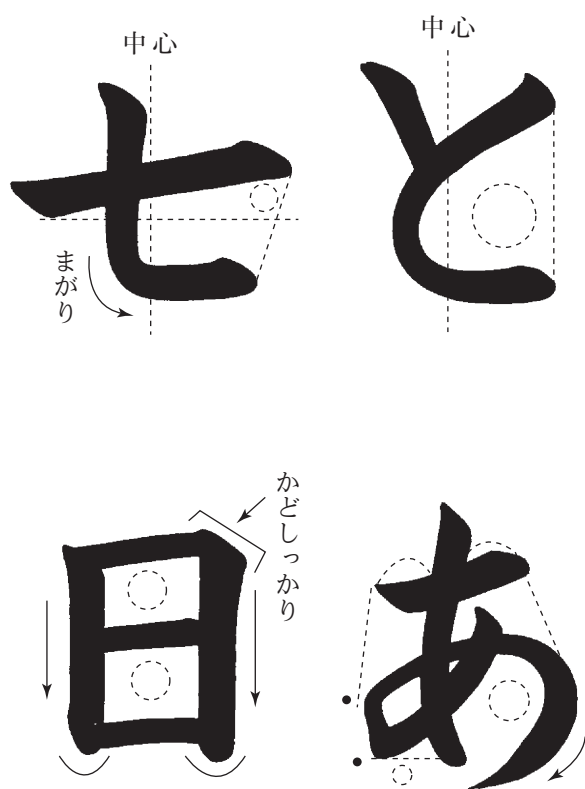


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五
通国
貨の

も里
小三
い

葉

里

通

1
2
3
も

貨

落

葉落
小四
ち

小三、小五年
柴しほ
田た
桃とう
花か
書

中二・三
団底
長援

小六
旅修
行学

小六／中二・三年

永谷恵子書

※行書は、連続する線をリズムよく書こう。

葉援長
とめ
右上がりに
とめ

修旅紅

中一
紅谷
葉の